令和元年度　放射線健康相談内容集計データ

１．調査期間

平成３１年４月～令和２年３月

２．相談件数（のべ件数）

区　分	件　数	備　　考
① 相談窓口	１件	
② 戸別訪問	２，０７７件	
合　計	２，０７８件	

３．避難種別内訳（のべ件数）

区　分	件　数	備　　考
① 自宅	２，０７８件	
合　計	２，０７８件	

４．相談内容（のべ件数）

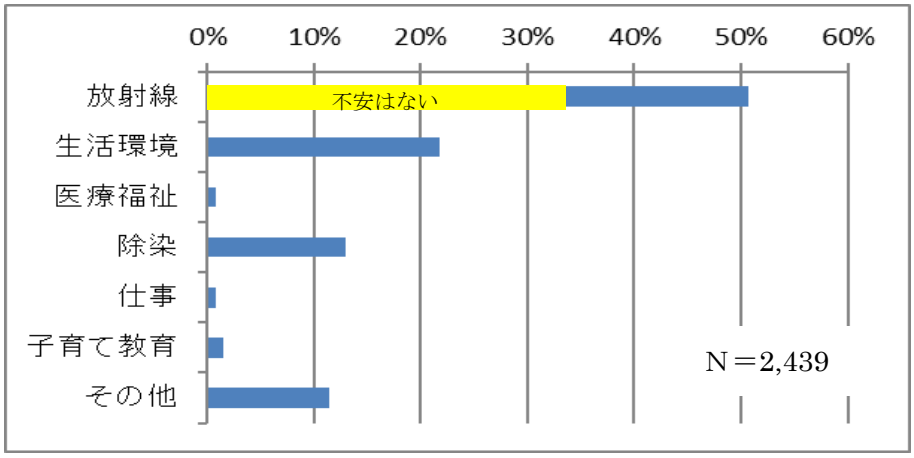
項目	放射線	生活環境	医療福祉	除染	仕事	子育て教育	その他	合計
件数	1,238 件	530 件	315 件	21 件	35 件	21 件	279 件	2,439 件
割合	51%	22%	13%	1%	1%	1%	11%	100.0%

※１件につき複数相談があるため相談件数とは合わない。

※なお、避難種別については自宅居住者のみであるため、次ページ以降の集計グラフでは割愛する。

５－１．相談内容の解析

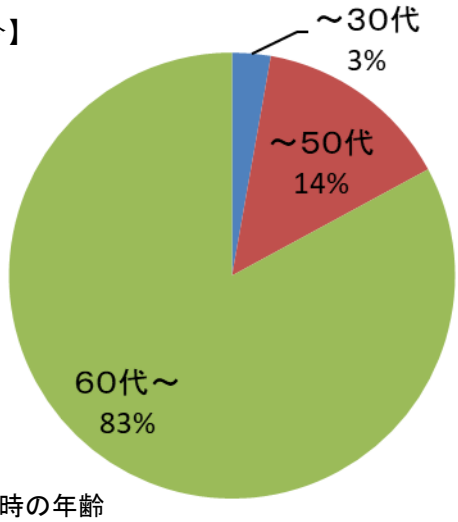
５－１－①　全体の解析



１）放射線に対する相談が一番多く、１，２３８件で全体の約５１％であった。
　※１，２３８件中８７０件は「不安はない」という回答。
２）続いて、生活環境の困りごとが５３０件で全体の約２２％であった。

５－１－②　年代による解析

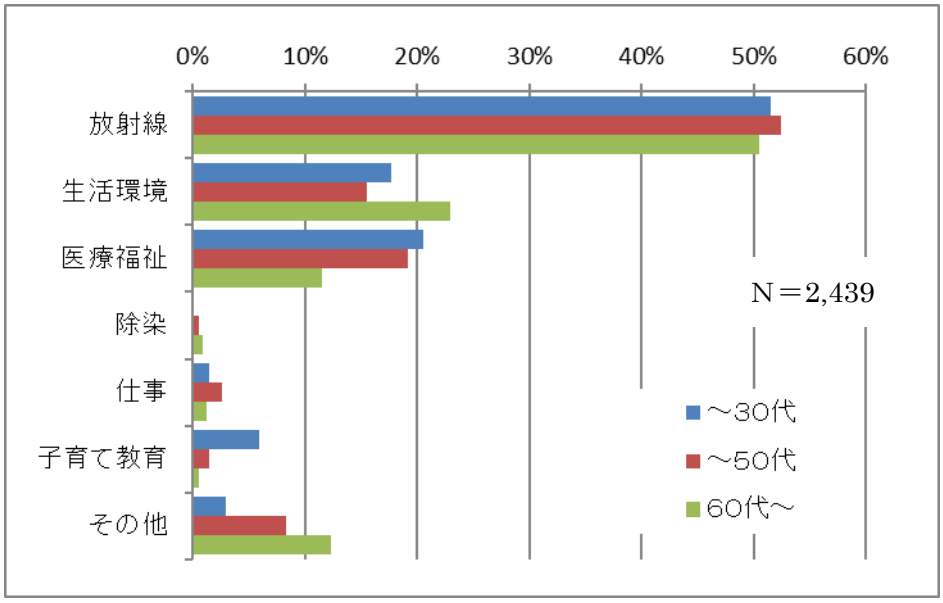
【年代の割合】



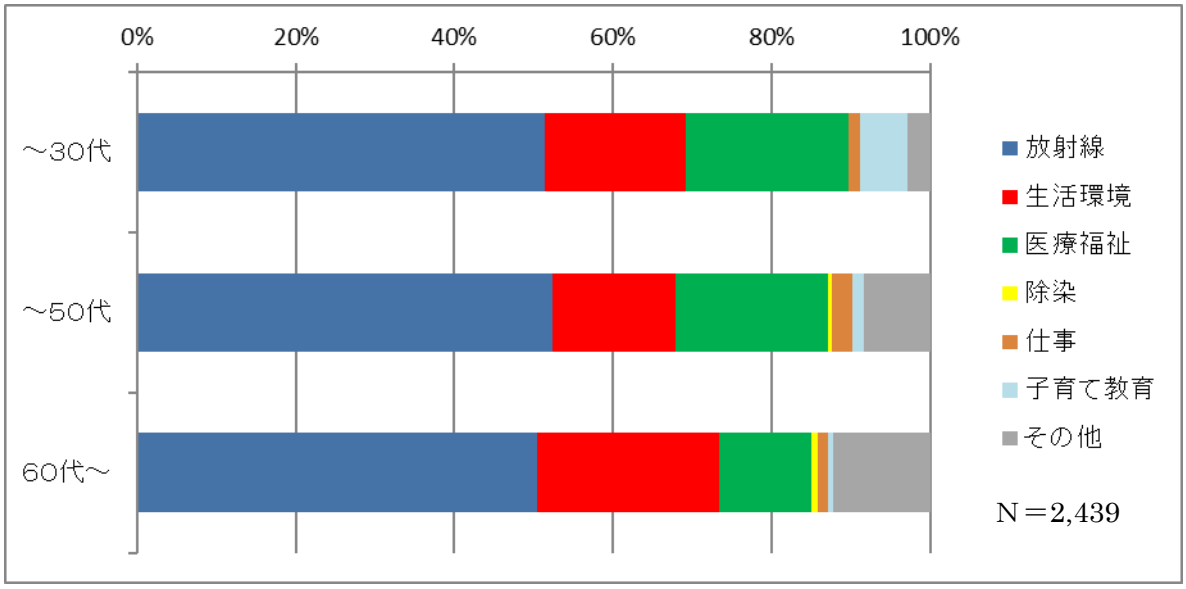
※年齢は相談時の年齢　　N＝2,439

１）相談内容における年代の割合を見てみると、６０代以上が一番多く、全体の約８３％であった。

【年代毎の相談件数】



【年代毎の相談内容の割合】



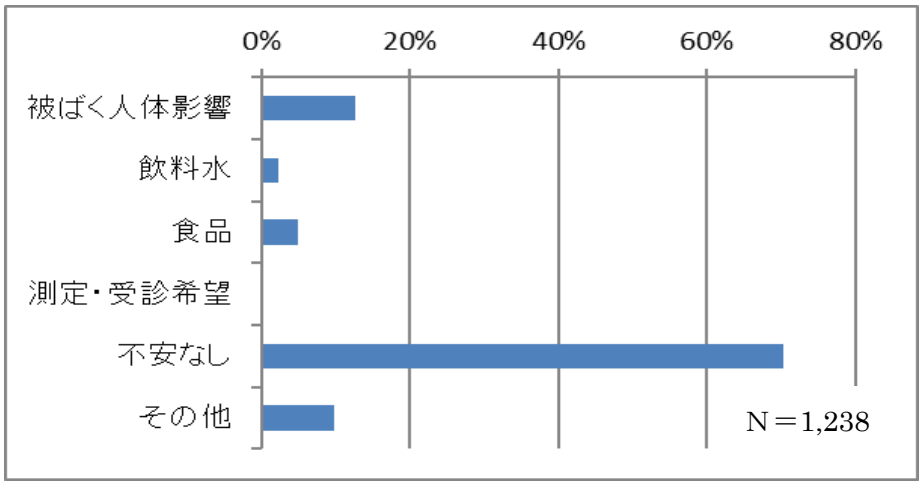
年代毎の相談割合を解析してみると、

１）放射線に関する相談の割合は５０代が一番多かった。
２）ほかの年代と比べて、３０代までは子育て教育に関する相談が多かった。
３）ほかの年代と比較して、６０代以上は生活環境に関する相談が多かった。

５－２．放射線の相談に関する解析

放射線に関する相談内容を細分化し解析した。

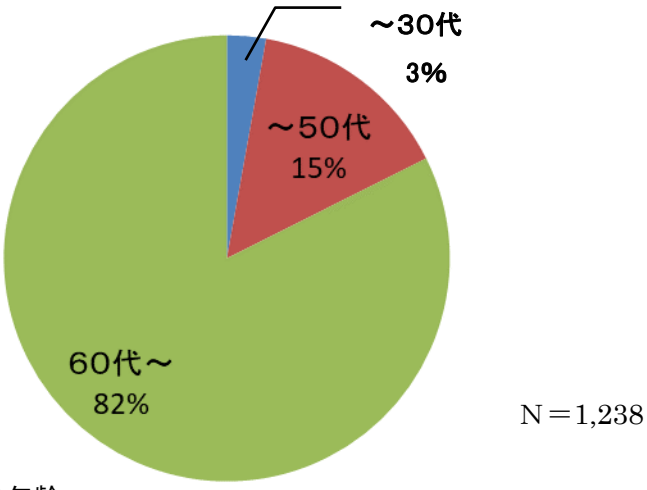
５－２－①　全体の解析（放射線）



１）被ばくによる人体影響の不安より、不安なしの割合の方が多い結果となった。

５－２－②　年代による解析（放射線）

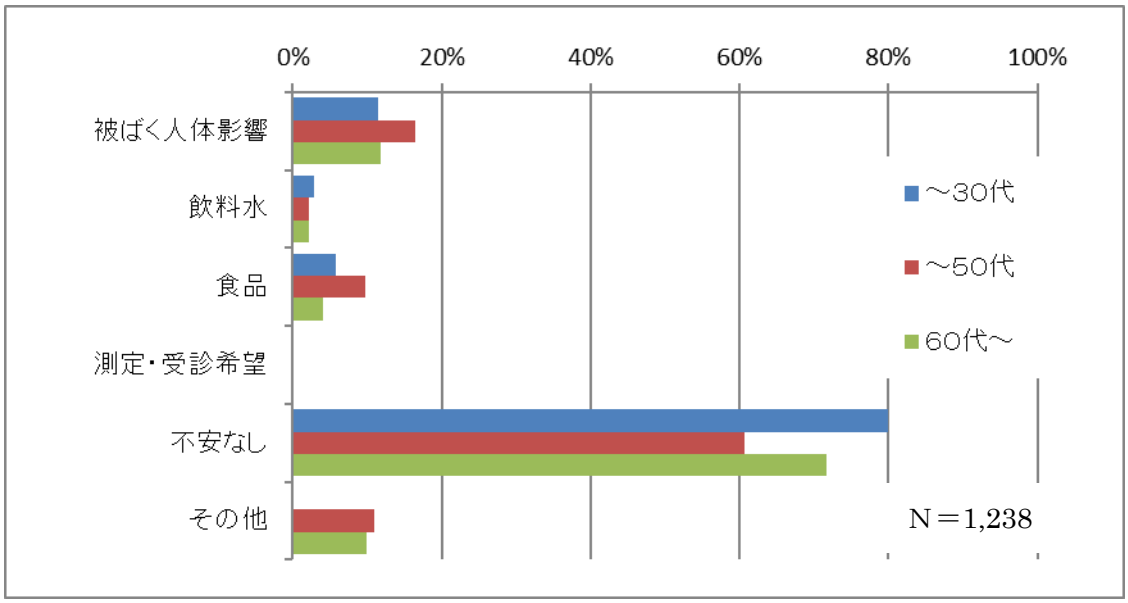
【年代の割合】



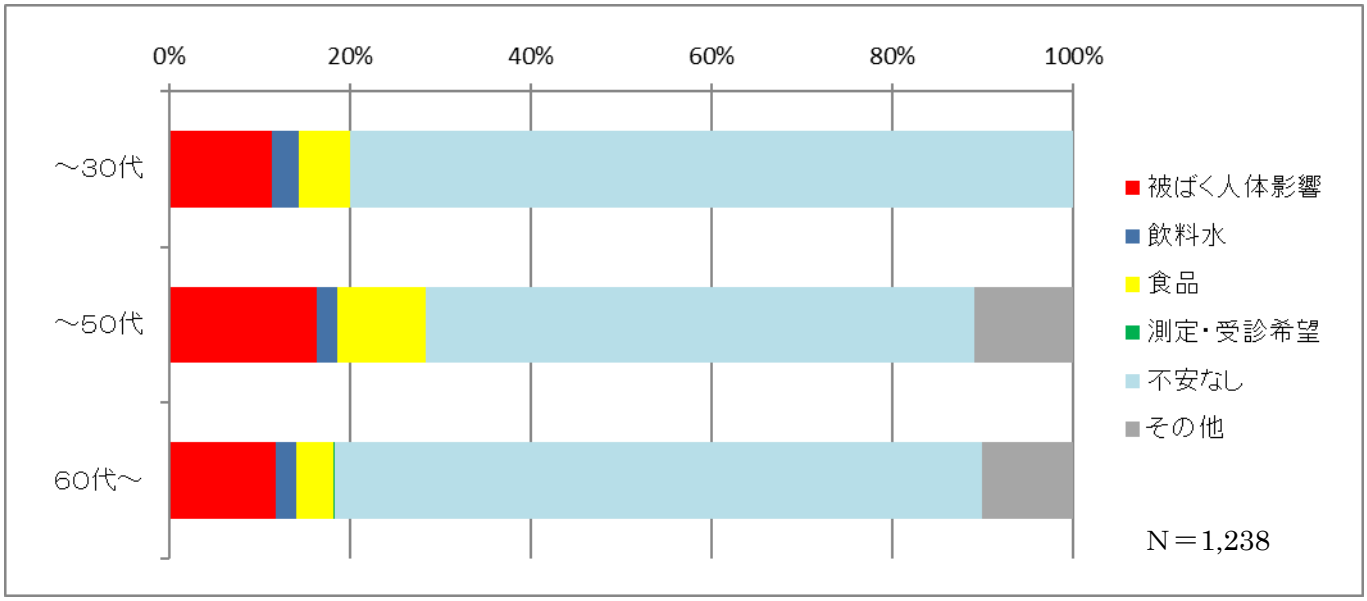
※年齢は相談時の年齢

１）放射線に関する相談内容における年代の割合を見てみると、６０代以上が一番多く、全体の約８２％を占めている。

【年代毎の相談件数】



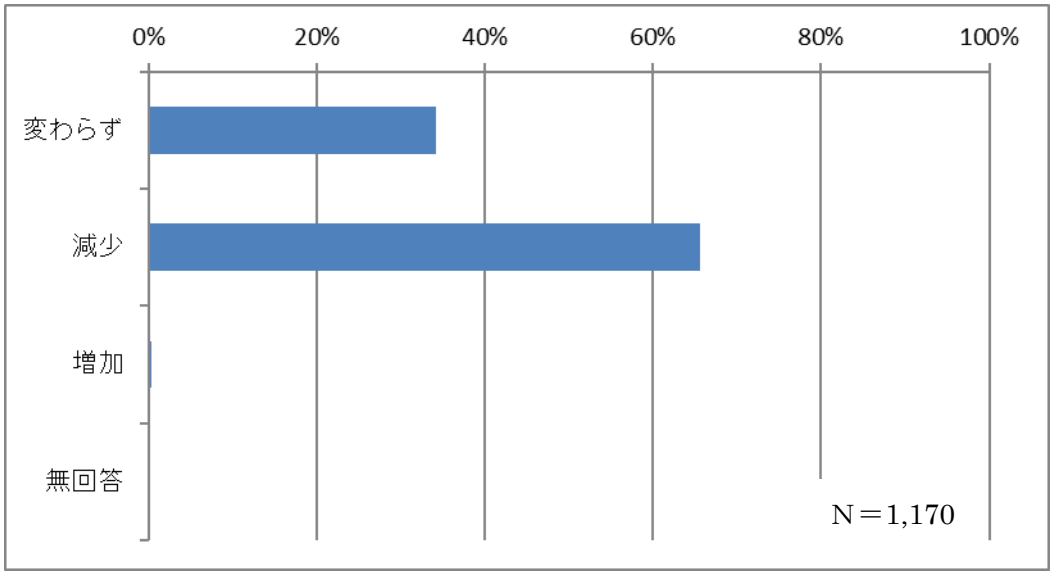
【年代毎の相談内容の割合】



１）ほかの年代に比べて、４０～５０代で被ばくによる人体影響に関する相談および食品による内部被ばくに関する相談が多かった。

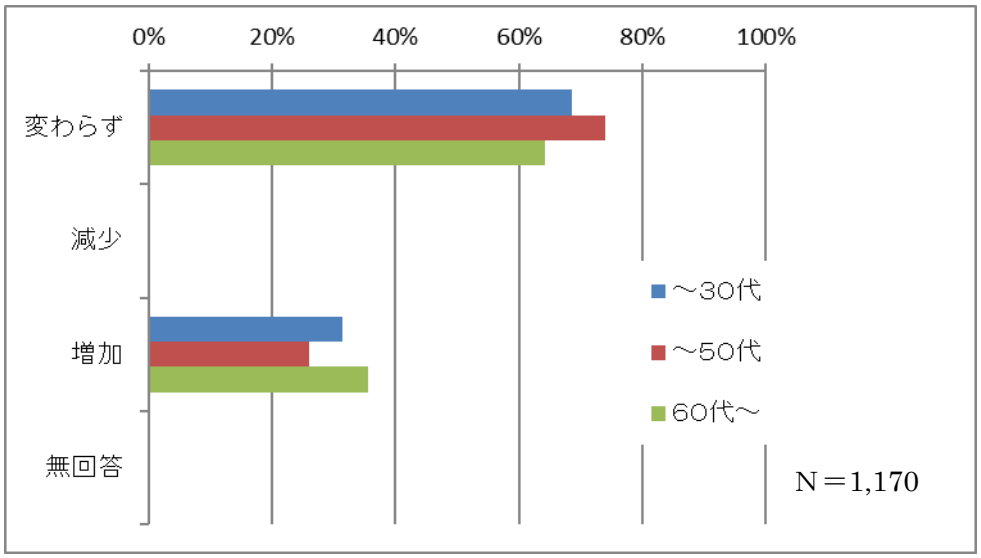
５－３．放射線に対する不安度の増減

５－３－①　全体の解析（不安度）



１）減少したとの回答が７６８件で全体の約６６％と有効回答の中で一番多く、次いで震災当時と変わらないとする回答が３９９件で全体の約３４％。増加したとの回答はわずか３件であった。

５－３－②　年代による解析（不安度）

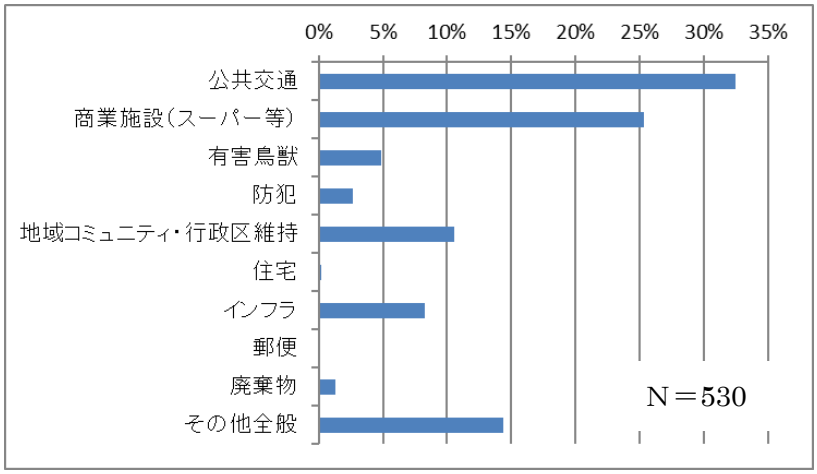


１）日中訪問の都合上、３０代以下の回答数は少ないものの、各年代ともに減少したとの回答が一番多い結果となった（無回答除く）。

５－４．生活環境の相談に対する解析

生活環境に関する相談内容を細分化し解析した。

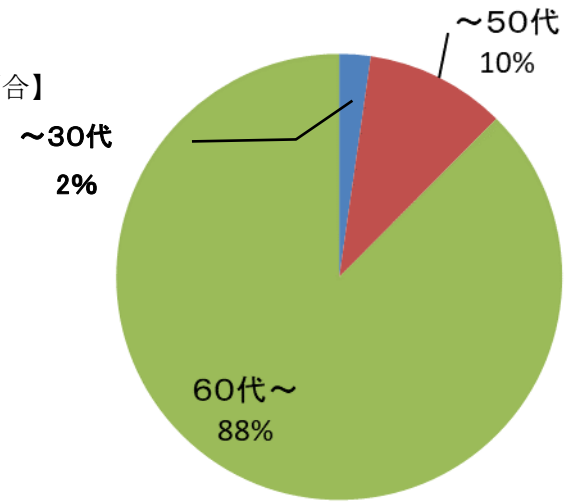
５－４－①　全体の解析（生活環境）



１）公共交通に関する相談が１７２件で、全体の約３２％であった。次いで商業施設の再開・充実に関する相談が１３４件で約２５％であった。

５－４－②　年代による解析（生活環境）

【年代の割合】

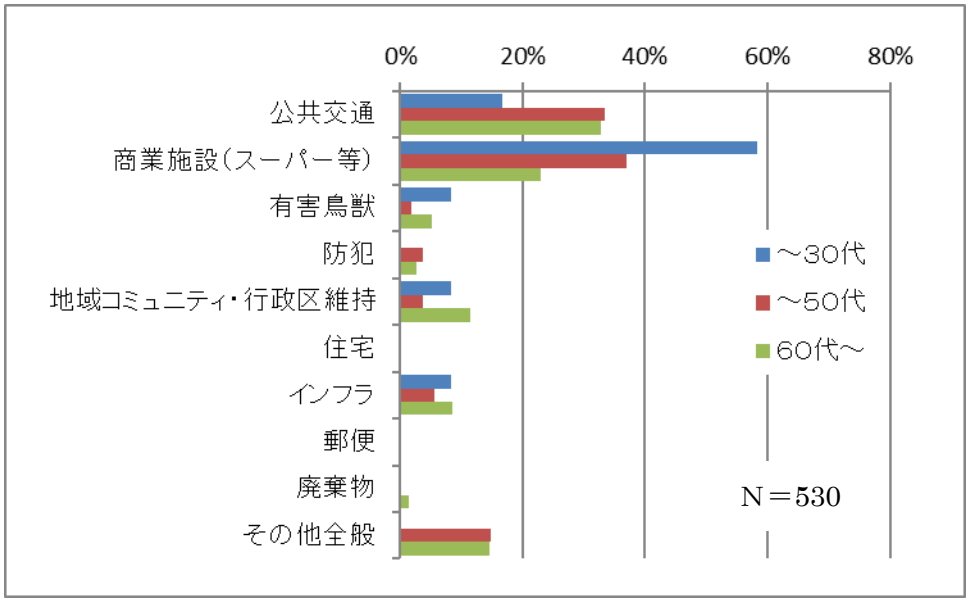


N＝530

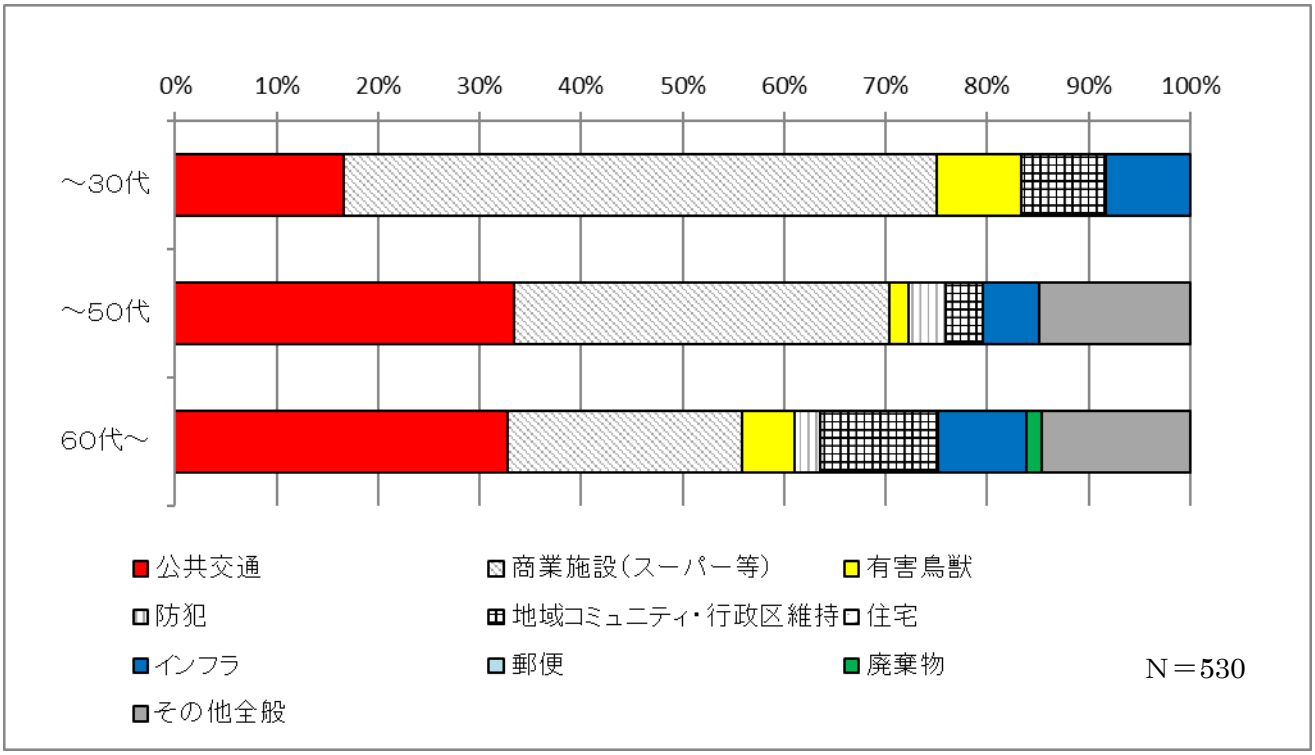
※年齢は相談時の年齢

１）生活環境に関する相談内容における年代の割合を見てみると、６０代以上が一番多く、全体の約８８％を占めていた。

【年代毎の相談件数】



【年代毎の相談内容の割合】



１）公共交通に関する相談は、５０代以上からの割合が多かった。
２）商業施設の再開・充実に関する相談は、年代が上がるにつれて減少傾向。
３）地域コミュニティ・行政区維持に関する相談は、６０代以上の割合が多い。